

令和7年度 学校教育の重点



「異年齢とのつながり」



「射し込む光の不思議さ
面白さに気付いて」



「遊びから学びへ 数の学習」

福知山市の教育目標

社会のために
(社会貢献)

**共に幸せを生きる
人材の育成**

自分のために
(自己実現)

人のために
(他者貢献)



「地域の施設から福祉について学ぶ」



「授業改善に向けた“日新授業スタイル”」



「小中のつながり 深まる絆」

【教育のまち福知山】

「教育のまち福知山」という言葉は、昭和50年代のはじめ、本市教育委員会が展開した「こだま教育運動」の中で生まれた。この運動は、家庭、地域社会がそれぞれの役割・責任を自覚し、互いに高め合い合おうとする心がこだまし合って教育を尊ぶ気風のあるまちの創出をめざしたもので、「響育（共育）運動」といえるものであった。今もその精神は脈々と受け継がれており、教育によって学んだことを、自分の幸せや夢の実現のため（自己実現）に生かすだけでなく、人のため（他者貢献）に、社会のため（社会貢献）に生かそうとする志をもった市民が育つまち、そんな市民を育てようとする気風のあるまちが「教育のまち福知山」である。



市役所前啓発看板

福知山市教育委員会

福知山市

教育を尊ぶ気風の中で福知山の子どもの可能性を伸ばす教育

合言葉「なりたい自分になる」



学力

一人ひとりの学力・学習状況に
着目した取組

進路

義務教育の出口
保幼小中一貫・連携教育の総和

生徒指導

児童生徒の健全な育成
いじめ見逃し0
不登校課題への対応

人権教育を基盤として

「どの子ども伸びる・自立する」



「ICT活用による効果的な指導」

「学びをつなぎ 夢をひろげる」

授業づくり

主体的・対話的で深い学び
学習規律の確立

「学ぶ目的・意義」



「5スターミーティング」

デジタルとアナログを融合させた学び



- ・ICT機器の効果的な活用
- ・従来からの良さを活かした授業
- ・個別最適な学びと協働的な学び

基礎・基本の習得

学習習慣・家庭学習



福知山授業スタンダード

- ・付けたい力を明確にした、めあての提示から「振り返り・確かめる」までの一貫した指導

授業スタンダードを支える視点

- ・安心できる学習環境
- ・個に応じた指導の工夫
- ・教師の姿・授業形態
- ・学び合いのある授業展開
- ・学び方を身に付ける

教員の資質能力の向上

- ・授業力の向上
- ・専門性の向上
- ・個と集団に対応する教師力の向上

施策活用

- ・学びの充実事業
- ・少人数授業
- ・教科担任制
- ・研究開発指定校事業
- ・地域未来塾

学力把握・分析

- ・全国学力・学習状況調査
- ・京都府学力・学習状況調査
- ・総合学力調査
- ・非認知能力の把握

要素 ▶ 子どもと教員の良い関係性 ▶ 落ちついた学級づくり ▶ 子どもに夢と目標を持たせる取組
シームレス学園構想 ▶ 学校をあげた学力向上の熱意 ▶ 教員間で指導の共有化(語り合い)

学力の基盤

生徒指導の機能

人権教育の視点

特別支援教育の視点

認知・非認知能力

ICTの効果的な活用

- ・ デジアナ教育^(※)の推進・・・デジタルとアナログの有効性を見極めた活用の推進
- ・ 個別最適な学びの実現・・・ICTを最大限活用し、児童生徒一人ひとりにとっての最適な学びの実現
- ・ 情報活用能力の育成・・・Society5.0社会を生き抜く情報活用能力の育成(自制できる力の育成と適切なフィルタリング)

※ これまで培ってきた教育研究の成果を生かしつつ、ICT機器の効果的な活用を推進する教育

福知山授業スタンダード

付けたい力を明確にした「めあて」から「振り返り・確かめる」までの一貫した指導

学びの主体者は児童生徒

小中一貫した学びのスタイル

導
入

つか
む

めあての提示

- ・ゴールを見通した明確なねらいの提示
- ・考える必然性のある展開を意識した課題の設定

展

ため
す

考えをもつ

- ・既習事項や経験を根拠に見通しを持った思考
- ・考えを説明するために必要なものの活用
(書く活動・図表)

開

高め
合う

学びを深める

- ・個の考えを明確化、深化
- ※同じところ、違うところ、似ているところ
- ・根拠となる理由を明らかにした説明

ペア

グループ

全体

ICTの効果的な活用

ま
と
め

振り返り・
確かめる

振り返り・確かめる

- ・解決の過程を振り返り、新たな気づきをめあてに即して整理する活動
- ・「何が分かったのか」、「何ができるようになったのか」問題等を自力で解かせて確認

評価

①評価基準の設定

ゴールを見通して、何を理解・できるようにさせるのか

②評価場面の設定

1 単位時間のどの学習場面で評価するのか

③評価方法の設定

どんな方法で評価するのか

④個に応じた指導の工夫

めあてに迫るための児童生徒への個に応じた指導をどのように工夫するのか

家庭学習の充実
(時間の確保、計画性、授業との関連性)
学年 × 10 + 10分以上



「みんなが分かる授業づくり」

令和7年度福知山市の教育の基本理念

- 1 基本的人権の尊重を基盤とし、多様な子どもたち一人ひとりを大切にし、誰一人取り残すことなく、個性や能力を最大限伸ばし可能性を広げる（子どもたちの「なりたい自分になる」を支援する）教育を推進する。【普遍性】
- 2 「福知山市立学校教育内容充実推進プラン(『響』プラン・F)」に基づき、教育を創造する。
「保幼小中一貫・連携教育〈シームレス学園構想〉」を踏まえ、校種を超えて切れ目なく学ぶことで、学力・生徒指導の課題を解決し進路を保障する教育を推進する。【地域性】
- 3 学習指導要領を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」のもと、よりよい社会と自他ともに幸福な人生を創造する（ウェルビーイング）ための教育活動を推進する。
「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を改善し、且つ、ICTを効果的に活用し、目指す資質・能力の3つの柱（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）をバランスよく育む教育を推進する。【時代性】

重点目標1 確かな学力をはぐくむ

① 学びの基盤を培う幼児教育

- ☐ 幼児理解に基づき、幼児自らが遊びに向かう自発性を大切にした環境を通じた教育による資質・能力の育成、発達段階に即した言葉による伝え合いの充実、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導、小学校教育との円滑な接続のための相互理解の推進と接続カリキュラムの改善による学びのつながり、障害のある幼児への指導の充実、子育て支援活動の充実

② 「なりたい自分」の追求から学ぶ意義を深く考える取組

- ☐ 「なりたい自分になる」を合言葉にして学ぶ目的と意義を深く学ばせ、どの子も伸びるという観点から子どもの可能性を伸ばす教育の推進、キャリア教育と連動して将来の目標や夢を持ち主体的に学ぶ児童生徒の育成、認知能力・非認知能力を一体的にはぐくみ社会で活躍する人材の育成

③ 一人ひとりの可能性を伸ばす豊かな学びの実現

- ☐ 「主体的・対話的で深い学び」「学習規律の確立」を柱に、「生徒指導の機能」「人権教育の視点」「特別支援教育の視点」「認知・非認知能力」を学力の基盤とし、「デジアナ教育の推進」「基礎・基本の習得、学習習慣・家庭学習」を重視した学びとともに、「福知山授業スタンダード」を踏まえた授業づくりを推進、小学校における教科担任制や各校の少人数加配等の効果的活用による学力向上、研究開発指定校による研究成果の波及と活用、学習指導力向上に向けた教職員研修の充実

④ 基本的生活習慣・学習習慣の定着

- ☐ 生活の振り返りと見直しによる基本的な生活習慣の定着、児童生徒の生活課題の解決に向けた学校・家庭が連動した取組、小中連携による家庭学習習慣の定着(学習時間の確保・学習内容の充実)

⑤ 読書活動の充実による創造力・表現力の育成

- ☐ 「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての学校図書館機能の充実、市立図書館との連携協力による「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」の実践

重点目標2 一人ひとりを大切にし、個性や能力を伸ばす

① キャリア教育の推進

- ☐ キャリアパスポートを活用した教育活動と校種間連携の推進、福祉体験活動・職場体験学習・ボランティア活動等の充実、進路実現に向けた見通しを持った指導、ガイダンス機能の充実

② 一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた特別支援教育の推進

- ☐ 共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システムの構築、子どもが安心して過ごせる居場所となるための特別支援教育の視点を生かした学級づくりと授業づくり、個々の障害特性に合わせた指導や支援の充実、柔軟な学びの場の選択と学びの連続性の実現、障害理解促進と社会参加に向けた交流及び共同学習の推進、特別支援教育推進に向けた校内委員会の充実

③ 就学前から就労に至るまでの一貫した特別支援連携システムの推進

- ☐ 「アセスメント票」「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の効果的な活用、就学前スクリーニング・思春期スクリーニング及び「個別の移行支援シート」の有効活用、特別支援連携チーム等の専門機関との連携、特別支援連携システムを活用した就・修学支援

④ 特別支援教育におけるICT活用

- ☐ 障害のある児童生徒の支援に役立つICT活用の研究と自立や社会参加に向けたICT活用能力の育成

重点目標3 豊かな人間性と社会性をはぐくむ

① 道徳教育の充実

- ☐ 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進体制の充実、道徳教育の要としての「考え、議論する」道徳科の推進、効果的な資料や豊かな体験活動を生かした多様な指導の充実

② 人権教育の推進

- ☐ 学校や社会の現状を踏まえた人権教育推進計画の策定、学力充実と希望進路の実現、人権学習副読本「幸せを生きる」等を活用した人権学習の充実、互いを理解・尊重しながら成長し合う人間関係をはぐくむ仲間づくり・学級集団づくり、家庭・地域・関係諸機関との連携、教職員等の認識の深化及び人権教育に関する同和教育の成果と手法への評価を踏まえた実践力・指導力の向上を図る研修の充実

③ いじめ根絶に向けた取組の推進

- ☐ 学校いじめ防止基本方針、重大事態の調査に関するガイドラインの改訂に基づく取組の見直しと充実（未然防止と早期発見）、「いじめ見逃し0」につながる取組の充実、いじめへの組織的で迅速な対応と継続した見守り

④ 積極的な生徒指導の推進

- ☐ 「生徒指導提要」に基づいた組織的な生徒指導体制の確立、発達支持的生徒指導に基づく計画的な学級経営や授業実践、自治能力を高める児童会・生徒会活動等特別活動の活性化、規範意識を育てる取組、警察や児童相談所等の関係機関・家庭や地域社会との連携、ネットトラブル防止教室・非行防止教室・薬物乱用防止教室の実施、生命(いのち)の安全教育の充実

⑤ 教育相談・支援の充実、不登校の未然防止と誰一人取り残さない学びの保障

- ☐ 組織的な教育相談体制の充実、発達支持的教育相談の観点を取り入れた教育活動、個々の状況把握と計画的な支援（「児童生徒理解・支援シート」の活用等）、ケース会議等による情報共有と組織的対応や支援の充実、「多様な学びアクションプラン」を踏まえたスクールカウンセラー等や、多様な学び推進連携チームとの連携、ガイダンスとカウンセリングを活かした不登校未然防止の取組（学級経営の改善や研修の充実）、多様な学びの場の活用

⑥ 地域の将来を担う人材の育成

- ☐ カリキュラムマネジメントにより、郷土の自然、歴史、文化などに関する体験的な学習を重視、地域の教育資源の活用、郷土の伝統文化の継承

重点目標4 健やかな身体をはぐくみ、命を守る

① 体力・運動能力の向上と体育・スポーツ活動や文化・活動の活性化

- ☐ 体力・運動能力の課題解決に向け、府指導資料や実践校の取組を活用した指導の充実、部活動の地域連携・地域移行に向けた休日部活動実証事業（ホリデークラブ）の拡充、学校(園)美術展・学校音楽祭等を活用した各種文化・芸術活動の充実、「『響』プラン・F」に基づいた文化・芸術体験

② 保健学習と保健指導の充実

- ☐ 心身の健康保持増進と安全で衛生的な生活環境づくりの推進、家庭と連携した基本的生活習慣の確立、学校保健安全計画の検証と改善、学校保健会の充実、薬物乱用防止教育・くすり教育の実施、保健だより等による啓発

③ 生きる力を身に付ける食育の推進

- ☐ 学校の教育活動全体を通じた食育の組織的・計画的推進、栄養教諭の役割を生かし、関係機関が連携した体系的・継続的な食に関する指導の充実、生きた教材としての給食を活用した食育の推進、食物アレルギー対応の手引き（令和4年12月改訂2版）の活用、朝食摂取や主食・主菜・副菜のそろった栄養バランスに配慮した食事の啓発、食文化に関する学習の推進

④ 安全教育と安全管理の充実

- ☐ 防災教育を柱にした「自ら判断し、自ら行動する力」を発達段階に応じて育成する仕組みの構築、シームレスな一貫連携した防災教育の確実な実施、より実践的な避難訓練の導入、地域や警察を含む防犯・安全協力体制の強化、学校・園の「危険等発生時対処要領」の検証と改善、教職員の危機管理能力の向上

⑤ 健康的な生活習慣の確立と健康課題への対応

- ☐ 児童・生徒に基本的生活習慣を身に付けさせるための指導と啓発、様々な感染症に対する感染防止対策の推進



「年長児が開いたクリスマスマーケット」



「おばけ屋敷へようこそ」



「大きなイチョウの木の下で」



「おやつ白玉だんごクッキング」



「立派な葉ボタンができたよ」



「協働的な学び」



「地域とつながる」



「伝統工芸を学ぶ」

重点目標5 社会の変化や現代的な諸課題に柔軟に対応する

① グローバル化に対応できる人材の育成

- ☐ 国際社会に生きる日本人としての自覚の育成、多様性の尊重と寛容の精神に基づいたコミュニケーション能力の育成、異文化への理解と尊重、世界に目を向けてはばたく人材の育成

② ICT教育の推進

- ☐ 情報活用能力の育成、デジアナ教育(表紙裏※1参照)の推進、デジタルシチズンシップ教育(※)の推進、プログラミング的思考を身に付けさせるとともに学習ソフト等の有効活用による個別最適な学びの実施、福知山公立大学情報学部と連携した児童生徒理解を深める心の可視化ツール等の効果的な活用
※デジタルシチズンシップ教育：デジタルツールを用いて責任ある市民として社会に参加するための知識や能力を身に付けるための教育

③ 「学校」をプラットフォームとした地域や関係機関等との連携の推進

- ☐ まなび・生活アドバイザー(SSW等)の効果的な活用、児童虐待の早期発見・通告、ヤングケアラーの早期発見・関係機関との連携による支援、子どもの貧困対策の推進、援護制度の有効活用、福知山市要保護児童対策地域協議会等関係機関との連携、福祉関係機関との連携強化

④ 現代的な諸課題に関する学習の推進

- ☐ SDGs(持続可能な目標)を踏まえた教育の推進、主権者に関する教育、消費や環境(環境配慮型学校給食食器、SDGs社会見学等)に関する教育や体験学習の充実、性の多様性に関する理解

重点目標6 学校の教育力の向上を図る

① 「社会に開かれた教育課程」の実現

- ☐ コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)と家庭・地域・学校の連携・協働による地域参画型の多様な学校の仕組みを活かした学校経営、熟議等を通して、地域資源や人材を有効活用し、教育の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実、組織的・計画的な教育による学校の安心・安全の確保に向けた危機管理能力の育成、チーム学校としての組織体制の確立と学び合う同僚性と校内研修の充実

② 保幼小中一貫・連携教育の推進

- ☐ 保育園・幼稚園・認定こども園・小中学校の学びと指導の連続性の確保、幼児期の教育を踏まえた9年間を見通した計画的・継続的な学びと指導の工夫、連携推進加配の役割の明確化と活用、「『響』プラン・F」(まなびの充実・心の充実)事業の推進

③ 教職員としての使命感・倫理観の保持と資質能力の向上と地域の信頼に応える学校づくり

- ☐ 自己申告・評価表に基づく目標管理による役割や教職員としての責任の自覚、学校運営協議会で承認を得た学校経営計画に基づく学校評価・学校関係者評価の公表と改善

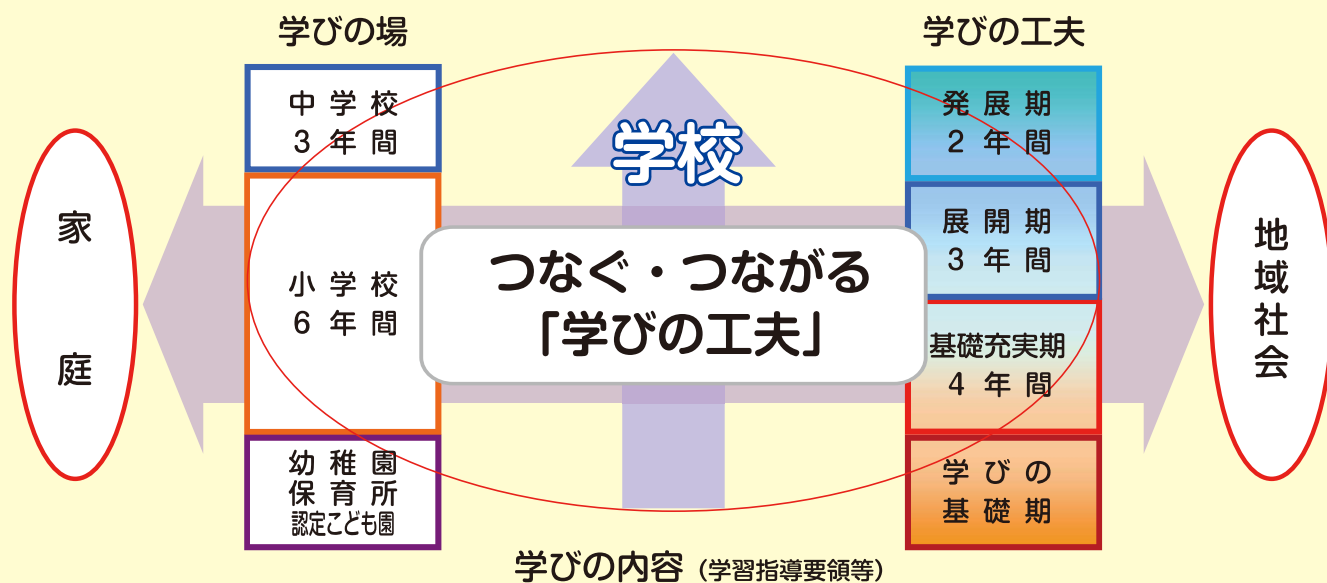
④ 研修等による人材育成

- ☐ キャリアステージに応じた計画的・継続的なOJTによる資質・能力の向上、単位履修制度の活用、体罰やハラスメント等の根絶に向けた教職員の意識改革と研修の工夫改善、教職員がいきいきとした姿を見せることができるような研修の場の設定

⑤ 学びを支える教育環境の整備

- ☐ いかなる時も子どもたちの学びを止めない学校危機管理体制の整備、教職員相互の連携・協働を進める方法の工夫、ICT環境による仕事の効率化による働き方改革の推進や共同学校事務室の効果的な運用等による業務改善により、教職員がいきいきと児童生徒に向き合い、自らの資質・能力の向上に取り組める環境づくり、教職員自身が学び続け、その学びを教育実践につなげることができるよう学校現場を伴走・支援

保幼小中一貫・連携教育計画（シームレス学園構想）



	幼児期（学びの基礎期） 体験しながら学ぶ	小1・2・3・4（基礎充実期） 学び方を身に付ける	小5・6・中1（展開期） 共に学ぶ	中2・3（発展期） 自分を磨き夢を広げる
確かな学力	○遊びや生活を通して意欲・態度を身に付ける。 ○生活の中で、言葉を使う楽しさを味わう。 ○気付いたり発見したり、試したりする楽しさを味わう。	○分かる喜び、できる喜びを味わい進んで学習する。 ○自分の考えを持ち、聞き、伝え合う。 ○学びの基礎（読み・書き・計算）、学習規律、家庭学習習慣を身に付ける。 ○ICT機器に慣れ、操作する。	○相手や目的に応じて話したり聞いたりする。 ○基礎を活用して問題解決しようとする。 ○伝え合い共に学びあう。 ○授業につながる家庭学習習慣を身に付ける。 ○ICTを理解し、問題解決を図るツールとして活用する。	○自らの希望進路を切り拓く。 ○社会に目を向け、将来の夢に向かって学ぼうとする。 ○主体的・対話的で深い学びを通して探究的な学習をする力を身に付ける。 ○生涯にわたり学び続ける基盤としての家庭学習を身に付ける。 ○ICTを効果的に活用し、自身の可能性を広げる。
豊かな心	○道徳性や社会性の芽生えとなる遊びなどを通した体験活動を行う。 ○自分と異なる考えを持つ他者に興味を持ち、互いに関わる経験をする。	○さまじりの意味が分かり守ろうとする。 ○自分や友達のよさが分かり違いを認め、進んで関わろうとする。 ○協力して最後までやる。 ○多様な体験に進んで取り組もうとする。	○規範意識を共に高めようとする。 ○人との関わりの中で、自分のよさに気づき、発揮する。 ○相手を大切に、他者との良好な人間関係を築く。 ○体験を通して、自分の役割・責任を自覚する。	○規範意識を高め、自己指導能力を身に付ける。 ○人間としての生き方を踏まえ、自己を見つめ、向上を図る。 ○自他の尊重、多様性の尊重、他者への思いやりの心を育てる。
健やかな身体	○遊びや生活を通して、健康的な生活リズムや基本的生活習慣を獲得する。 ○基礎的な動きを身に付け、表現力につなげる。 ○食べる喜びや楽しさ、様々な食べ物への興味関心をもつ。 ○様々な危険や災害について知る。	○基本的生活習慣を身に付ける。 ○基礎的な体力と運動技能を身に付ける。 ○食事の大切さを知り、好き嫌いをなく進んで食べる。 ○災害時に、自身を守るために必要なことを知る。	○自律した生活を送る。 ○体力・運動能力を高める。 ○様々な運動を体験する。 ○自分に必要な食事の内容や量を理解して食べる。 ○災害時に、自分や身のまわりの人を守るために必要なことを考えることができる。	○主体的に生活リズムを整える。 ○思春期特有の課題を解決する力を育てる。 ○培った体力・知識・技能を生涯スポーツにつなげる。 ○自分の食生活を見直し、食を通して健康管理をする。 ○災害時の社会参加や社会貢献について意識を高める。
つながり	○家族や身近な人と触れ合い人への信頼を持つ。 ○身近な環境に関わり、つながる体験をする。 ○家族とともに地域行事に参加しようとする。 ○挨拶を通して、人とのつながりを深める。	○地域の自然や人に親しみ、感謝の心を持つ。 ○積極的に地域行事に参加しようとする。 ○社会の決まりを知り、守ろうとする。	○自分と地域のつながりを自覚し、地域行事やボランティア活動に参加しようとする。 ○法やきまりを守り、自他の権利を大切に、進んで義務を果たそうとする。	○郷土を愛し、人々の思いや願いに応えようとする。 ○文化・伝統行事に参加し、地域の一員としての自覚を育てる。 ○法やルールを守り、社会の一員としての自覚を育てる。